

<事業者名>

- ・株式会社まんぞく介護 代表取締役 西谷 剛
 - ・東京都豊島区池袋本町1-46-5 2F
 - ・事業内容として、居宅介護支援、訪問介護、通所介護、福祉用具貸与・販売を手掛けている
 - ・平成29年度より豊島区の選択的介護モデル事業に参加
 - ・平成30年度東京都の「次世代介護ロボット導入支援事業」に採択
- ★代表西谷は、ICT活用による業務改善、経営基盤強化の取組みに熱心で積極的。

<会社の沿革と理念>

株式会社まんぞく介護は有限会社ヒルマ薬局から2013年に独立。

めまぐるしく変わる介護事業の経営環境に対応するため、事業経営責任を明確にし、薬局と介護の連携をより深め、地域社会により貢献できるように事業に取り組んでいる。



1. 現状の問題点

<訪問介護における問題点>

- ・個別ケアプランに必要な利用者の24時間の生活リズム情報が就寝時の睡眠時間含め充分に把握できていない。
- ・情報把握はヒアリングでの主観的アセスメントで、情報の正確性を欠いている。
- ・介護サービス提供時間外の生活様態や就寝時の睡眠状況が殆ど把握出来ず。
- ・睡眠剤服薬の効果も把握できない。
- ・生活リズムの乱れやケアサービスの利用効果の測定手法がなく、限られた人的資源での介護サービスに限界を感じている。
- ・職員同士の情報共有は介護記録のみで、客観的なエビデンス情報が不足。
- ・職員のケア負担軽減

2. 導入目的

<解決したいと考えている課題>

- ・利用者の1日全体の生活状態をエビデンスで収集し客観的なアセスメントの実施
- ・介護サービス提供時間外の生活様態や就寝時の睡眠状況の把握
- ・生活リズムの乱れ等の変化、異変時の早期検知による対応改善
- ・ケアマネジメントにおけるモニタリングの充実
- ・職員の業務負担軽減を図る
- ・科学的エビデンスによる介護ケアサービスの定着化
- ・他事業者との情報連携や共有化、医療連携の強化
- ・サービスの適正化によるケアプランへの反映
- ・介護従事者、家族の介護負担軽減

3. 導入経緯

- ・在宅介護ケアにも科学的エビデンスによるサービスの在り方が重要と認識しており、ICTの活用を模索していた。
- ・平成29年度 公益社団法人テクノエイド協会主催の介護ロボット実用化支援事業で採択された、「スマートケアリンク ライファセスミいるも」の有効性に関心抱き、試行を検討したことが契機となる。
- ・試行導入に当たっては、メーカー「株式会社アイオーティー」と協議し、認知症状が見られる対象者を絞り、把握したい情報と実証効果を確認する。

4. 利用者情報

●利用者A

- ・独り暮らし 要介護度2 女性90歳 (親族は遠方に在住)
- ・サービス 訪問介護(月、金、日)
通所介護(火、水、木、土)、居宅療養管理指導
- ・A D L 杖歩行可、排泄は自立、夜間眠れない様子
- ・認知の症状あり (記憶がまだら模様)

<事業者が確認したい内容>

- ・夜間のトイレ利用頻度 (回数と時間帯、排泄所要時間)
- ・睡眠状態 (睡眠時間、不眠状態、睡眠剤の効用)
- ・不安症状が齎す日中、夜間の宅内での行動
- ・室内の温湿度 (熱中症予防対策)
- ・玄関ドアの開閉時間、回数 (徘徊予防への確認)
- ・冷蔵庫の開閉状況 (水分補給、食べ物など)

5. 導入時期

- ・設置 2018年5月28日～
- ・設置センサー機器
 - ①本体センサー
 - ②玄関ドア開閉センサー
 - ③起床センサー
 - ④トイレ人感センサー
 - ⑤冷蔵庫開閉センサー

【確認できる内容】

- ・リビングの温湿度、照度、人の動き（運動量）、起床時間帯
- ・玄関ドア開閉の頻度（回数と時間帯）、冷蔵庫の利用頻度
- ・トイレ利用頻度（回数、利用時間帯、排泄所要時間）
- ・睡眠時間、夜間離床頻度

利用者A宅への設置写真

・設置内容

- ①本体センサー
- ②玄関ドア開閉センサー
- ③起床センサー
- ④トイレ人感センサー
- ⑤冷蔵庫開閉センサー

- ・独居（自宅一軒家）
- ・要介護度2（女性）
- ・年齢90歳



6. 導入結果 / 改善状況

- 就寝夜間帯のトイレ利用頻度を把握でき、概ね不眠状態である状況を確認。
- 全般的に不眠状態にあり、睡眠剤服用の効力なしと判断、他方策を探る。
- 夜間時、認知症の兆候の動きが見られ、かかりつけ医に相談し介護度認定区分変更を申請。
- 区分変更調査の結果、要介護度を2→3へ変更、訪問看護サービスを追加。



- 不眠状況が改善され、適度な睡眠時間がとれており、
現在は精神的にも生活リズムも安定している。（担当ケアマネの談）

事業者様の声

- 要介護度の区分変更(要介護度2→3)ができ、適正サービスの提供が図れた。
- エビデンスに基づく客観的なアセスメントが可能となり、ケアサービスの質向上に貢献する。
- 介護ロボット機器としての活用による定着化を本格的に取り組んでいきたい。



代表取締役 西谷 剛